

〔類聚名義抄衣〕六內衣 ユカタヒラ

〔伊呂波字類抄雜物〕內衣 ユカタヒラ 明衣 同

〔運歩色葉抄遊〕湯帷

〔易林本節用集食服〕明衣 ユカタヒラ 浴衣

〔和漢三才圖會衣服〕二十八浴衣 內衣出于温 明衣出于論語 和名由加太比良 俗曰由加太浴帷子訓

下略

〔女重寶記五衣服〕明衣

〔倭訓栞中編二十七〕ゆかたびら 和名抄に明衣をよめり浴衣なり今ゆかたといふは梵書にい

ふ內衣も同じ

〔嬉遊笑覽服飾〕二上又今ゆかたといふは湯帷子なり○中貞順故實集に身拭と申よりは御湯かたび

らと申は上り候とは詞の上下をいふ湯かたびらを身拭ともいひし也手拭といひて湯に後世

略して湯かたと云猿樂狂言記などに見えたり

〔傍廂前篇〕單物 帷子

當世は絹木綿など裏なきを單物といひ生絹麻などの類を帷子といひて着る時節も差別あり  
さるべきことにあらずすべて裏なき衣は皆單物なりひとへなるが故に片といひ風にひらめ  
く故にひらといへるにて同じものなり浴衣をゆかたといへるも湯帷子の義なり頂上の領巾  
も甲冑の母衣も軍器の旗も魚の鱗も鬚もヒラの轉語にて同義の名なりヒラメクハタメク  
と同言なり

內衣製作

〔和漢三才圖會衣服〕二十八浴衣略 ○中

按浴衣夏用布冬用木綿常州真岡曝河州小曝攝州北野明衣綾皆爲浴衣木綿也